Red Hat Insights ご紹介

森若 和雄 <kmoriwak@redhat.com> Red Hat K.K. Solution Architect 2021-07

概要

- Red Hat Insightsとは
- Red Hat Insightsの仕組み
- Red Hat Insightsが特に有益なシーン
- Red Hat Insightsの使い方
- 機密情報の隠匿
- まとめ

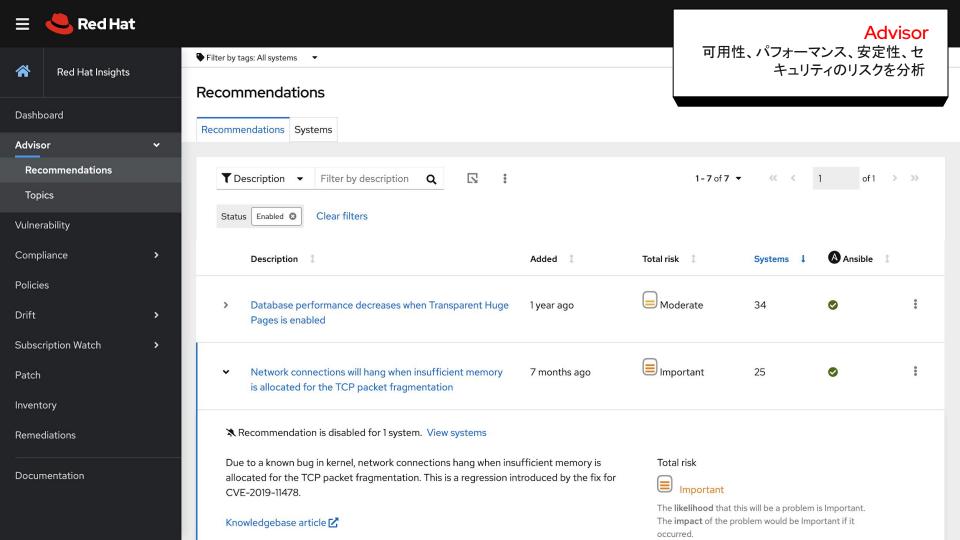
Red Hat Insightsとは

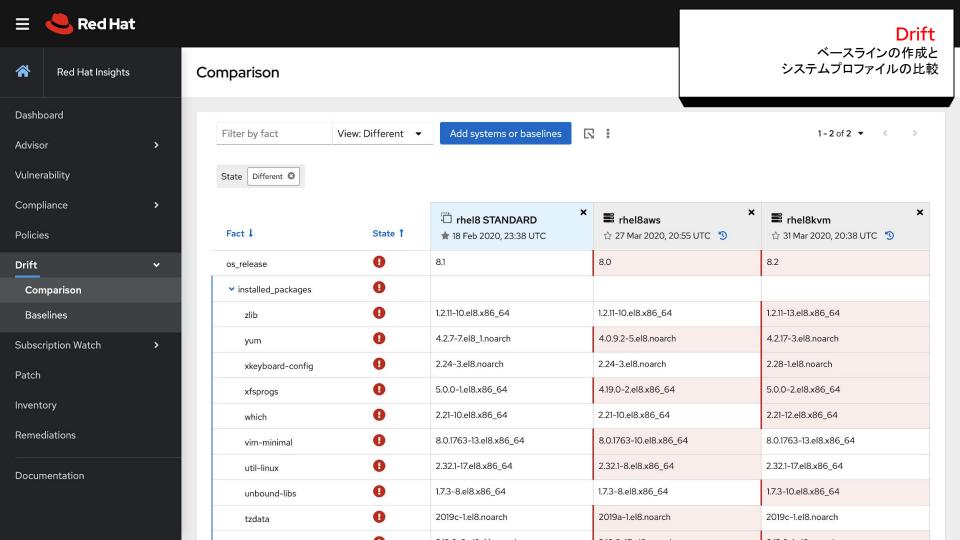
プロアクティブなシステム分析サービスです 重大な問題や設定の齟齬を検出

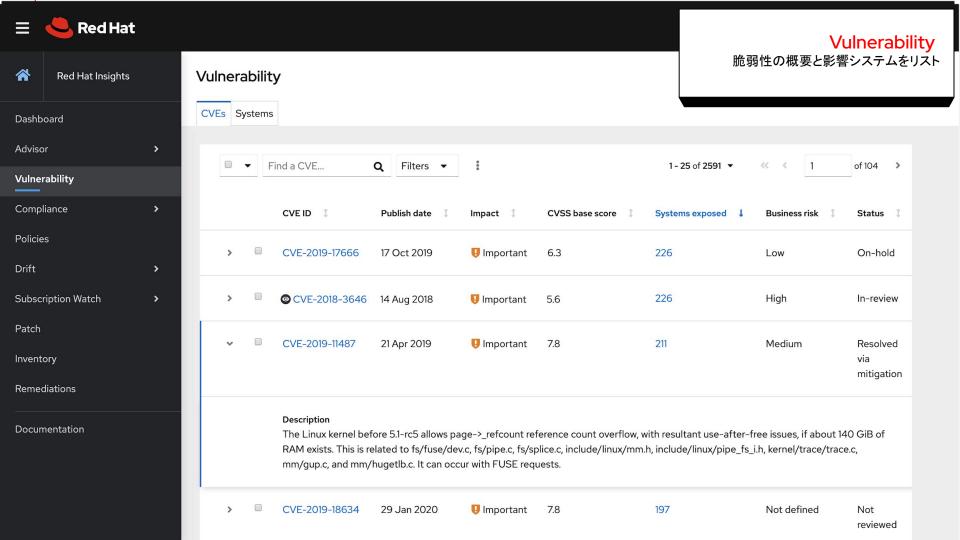
- 統計情報
- ハードウェア情報
- パッケージ情報
- 特定の設定やログ
- サードパーティ製品

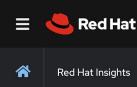
主な機能

- Advisor: 問題の発見と説明、対策方法を含むレポートを生成
- Drift: システム同士の比較、あらかじめ保存したBaselineとの比較
- Vulnerability: 脆弱性情報や(あれば)回避方法
- Patch: errata情報









Dashboard

Advisor

Policies

Drift

Patch

Red Hat製品のアドバイザリ適用状況

1 - 25 of 4517 **T**

Patch

Applicable advisories Systems

Search advisories

Q

Y Search

Vulnerability

Compliance

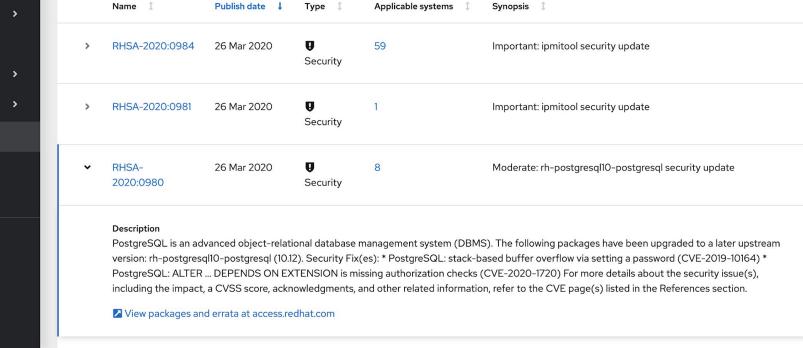
Patch

Subscription Watch

Inventory

Remediations

Documentation

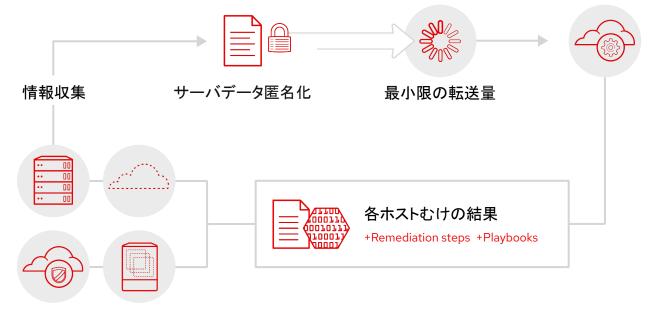


Red Hat Insightsの特徴

- RHELやOpenShift等の一部として提供され、追加の費用は発生しません。
- SaaS形式でのみ提供されます
- Ansibleによる実行可能な修正スクリプトを生成します
 - 発見された問題の内対応するものはAnsible Playbookを生成
 - 脆弱性に対するワークアラウンド
 - 事 非推奨設定の変更
 - 問題に関連するパッケージの更新 など
 - Playbookの実行方法
 - Playbookをダウンロードして実行
 - Ansible Tower との連携による実行
 - Red Hat Satellite との連携による実行

Red Hat Insightsの仕組み

- エージェントを各システムに導入し、データを送信します
- Red Hatの作成したルールによりデータが解析されます
- 解析結果のレポートをWebブラウザで閲覧できます



健康診断にたとえてみると.....



採血



insights-clientでの 情報収集



診断票



レポート



対策



レポートに対応手順や Playbookも記載

Red Hat Insightsが特に有益なシーン

- 構築時: 抜け漏れ防止
 - 重要な修正の適用漏れを検出
 - 典型的な設定ミスを検出
 - 古いファームウェアの検出など、一般的な障害予防
- 運用時: 最新情報へのキャッチアップ
 - プロアクティブなチェックと警告
 - Red Hatが持つ最新のナレッジを基とした診断

Red Hat Insightsの使い方

導入

- 1. insights-client パッケージを導入
- 2. insights-client --register でシステムを登録 → 1日1回情報を送信

運用

- 1. メール通知Advisorからメールによる通知を受信 (イベント毎/週次)
- 2. Webレポート画面を閲覧
 - 問題の原因となりうる課題が表示されます
 - 。 一部の問題については対策用のAnsible Playbookを提供
- 3. 対策の実施
 - 課題に対する対策をAnsibleや手作業等で実施

機密情報の隠匿

Red Hat Insightsは必要最低限の情報を収集します。設定によりホスト名、IPv4アドレスの難読化が可能です。

さらに収集対象を制限して機密情報をRed Hatへ渡さない設定が可能です。

- 1. insights-client --no-uploadオプションによる素振り
- 2. お客様にて収集情報をレビュー
- 3. 収集禁止ルールを設定

収集禁止ルール:

- コマンド名、ファイル名による指定
- 正規表現、キーワードによる行単位の指定

まとめ

- Red Hat Insightsは定期的な情報収集とレポートで、障害が発生する前にプロアクティブなサポートを提供するサービスです
- Red Hatのサポートで蓄積されたナレッジをもとにルールが提供されます
- 早速使ってみましょう

https://cloud.redhat.com

Appendix

Red Hat Insightsの対象製品

- Red Hat Insightsは以下の製品を対象としています
 - Red Hat Enterprise Linux 6.4以降 および 7以降
 - Red Hat Virtualization 3.6以降
 - Red Hat OpenStack Platform 7以降
 - OpenShift Container Platform 全て

ネットワーク接続

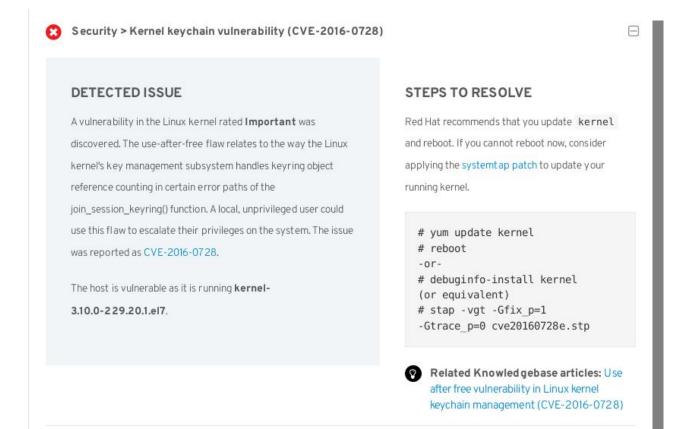
- Firewallでは api.access.redhat.com:443 および cert-api.access.redhat.com:443 へのアクセス許可が必要です
 - https://access.redhat.com/solutions/1583183
- Red Hat Satelliteまたは一般的なHTTPプロキシサーバをプロキシとして利用可能です
 - https://access.redhat.com/solutions/1606693

Red Hat Insights関連ドキュメント

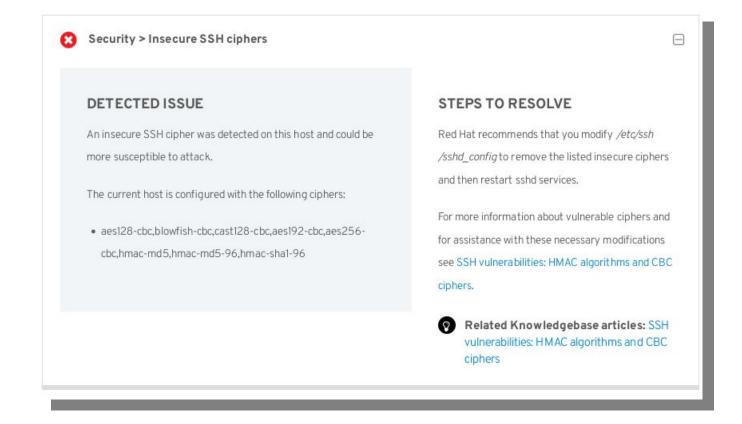
- Red Hat Insights ドキュメント
 - https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_insights/2021/
- Red Hat Insightsが収集するデータ
 - https://access.redhat.com/articles/1598863
- 特定ファイルのアップロードを禁止する方法
 - https://access.redhat.com/articles/4511681
- Firewall, Proxy経由での接続
 - https://access.redhat.com/solutions/1583183

Appendix レポートで報告される問題の例

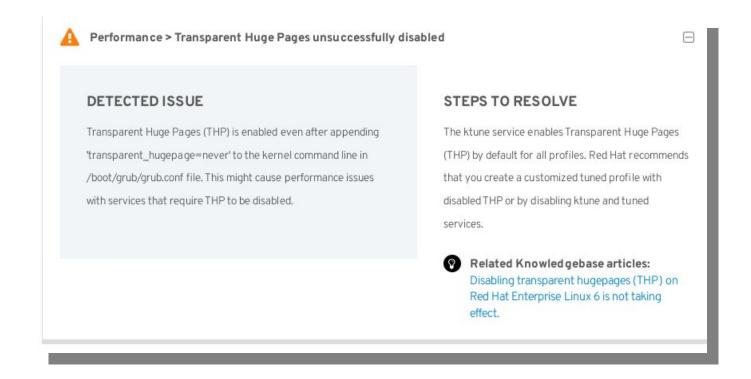
例 1: 既知の脆弱性を検出 linux kernelの脆弱性を検出



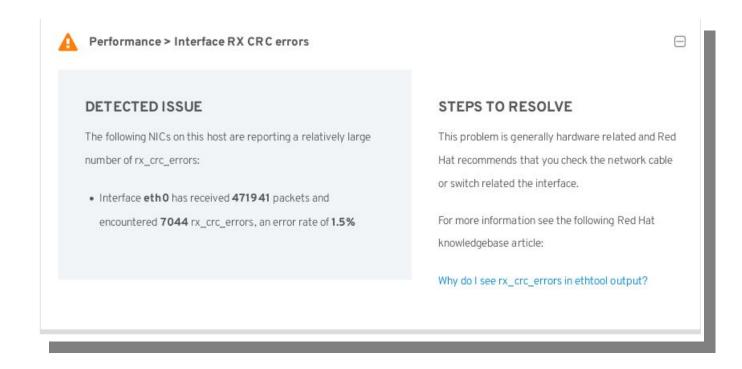
例 2: 設定内容の問題検出 脆弱な暗号化方式を許可している設定を検出



例 3: 設定と実態の比較による問題検出 設定意図に反してTHPが有効であることを検出



例 4: 統計情報による問題検出 NICでのCRCエラー頻発を検出



例 5: 他社製品ナレッジ、サービス状態による検出 競合するOracle RACとAvahiの併存を検出

